

金沢大学創基 150 年シンポジウム  
パナソニック教育財団実践研究

高等学校

「総合的な学習の時間」  
先進校シンポジウム

[資料]

金沢大学附属高等学校

群馬県立尾瀬高等学校

埼玉県立不動岡高等学校

名古屋大学教育学部附属高等学校

福岡県立城南高等学校

熊本県立鹿本高等学校

2010 年 7 月 31 日

会場 金沢大学附属高等学校

# 高等学校「総合的な学習の時間」シンポジウム参加者名簿

(2010年7月29日現在)

## シンポジウム校及び総括者

	所属	氏名
1	シンポ校 群馬県立尾瀬高校	松井 孝夫
2	シンポ校 埼玉県立不動岡高校	久保島 昌一
3	シンポ校 名古屋大学附属高校	三小田 博昭
4	シンポ校 福岡県立城南高校	下田 浩一
5	シンポ校 熊本県立鹿本高校	徳永 寛毅
6	シンポ校 金沢大学附属高校	高橋 栄一
7	司会 金沢大学附属高校	山本 吉次
8	総括 関西大学総合情報学部	黒上 晴夫

## 金沢大学附属高校「総合的な学習の時間」の取り組み

### 1. 「総合的な学習の時間」現行までの経緯

#### (1) 文部省研究開発校指定 (H4～H6)

- 1年生 内容：科学と社会 伝統・文化と生活 環境と生活  
方法：ディスカッション グループ研究 ディベート
- 2年生 内容：自己と世界の関わり 未来社会のデザイン  
方法：論文作成

#### (2) 指定終了後の「国際・文化科」(H7～H14)

- ①異文化理解 (H7) 中国エリア学習を、ディスカッション・グループ研究・現地学習・レポート作成により学習する
- ②マルチメディアを利用した表現力重視の自主研究 (H8) ビデオレポート作成
- ③「国際情報」(H9～H13) コンピュータによるホームページ作成
- ④「生活文化」(H9～H13) 内容：家族の在り方・自己の在り方・男女の在り方  
方法：ディスカッション・グループ研究 ディベート  
ロールプレイ 紙芝居
- ⑤「ワークショップ式選択制自主研究」(H10～H14)  
教員が講座を開き、生徒がそれぞれ講座を選択して自主研究  
開講講座 郷土史研究 手話に挑戦 地球の歩き方 国際比較環境学入門 日本方言地図

#### (3) 現行学習指導要領下での「総合的な学習の時間」(H14～H18)

- ①「生活と社会」(H14～)
- ②「健康と社会」(H14～H18) 内容：衛生・安全、医療、福祉 方法：グループ研究
- ③沖縄現地学習 (H15～H20) 講義・研究レポート作成・現地学習・体験レポート

### 2. 現在実践中の「総合的な学習の時間」(H19～)

#### (1) 本校の「総合的な学習の時間」の目標

自己を取り巻く社会、および異文化・異社会を主体的に探究学習する中で、情報収集・処理能力、論理的思考力などの学び方を身につけるとともに、問題解決に向けて創造的、協同的に取り組む態度を育てる。それらの学習を通して、自らの在り方生き方を考える。

#### (2) 「生活と社会」1年生1・2学期、2単位

##### 〈学習到達目標〉

- ① 現代社会や自分自身の課題を発見することができる。
- ② 課題解決のために、情報収集・処理・分析をし、論理的に結論を導く力を身につける。
- ③ 自分自身の考え方を他者と話し合い、さらに深めていけるよう、コミュニケーション能力を身につける。
- ④ 結果をプレゼンテーションできる能力を身につける。

〈学習内容と方法〉

- ① 身近な事象を探求しよう。(KJ法によるブレインストーミング)
- ② 身近な事象について討論しよう。(ディベート)
- ③ 身近な事象についてプランニングしよう。(プランニング対決:共通のテーマについて2グループがプランを作成しコンペティションを行う)

■平成 22 年度「生活と社会」予定表 (1 年 B 組)

	月日	学習活動	
一 学 期	4 月 14 日(水)	オリエンテーション, アンケート	犯人は誰だ I
	4 月 21 日(水)	犯人は誰だ II	
	4 月 28 日(水)	身近な社会問題を探る。	身近な社会問題を話し合う I
	5 月 12 日(水)	身近な社会問題を話し合う II	身近な社会問題を話し合う II
	5 月 19 日(水)	「ディベート」オリエンテーション	ディベートテーマ決定, 班分け
	5 月 26 日(水)	ディベート準備	ディベート準備
	6 月 2 日(水)	ディベート I	ディベート II
	6 月 9 日(水)	ディベート III	ディベート IV
	6 月 16 日(水)	ディベート V	ディベート VI
	6 月 30 日(水)	アンケート VII	自己評価
二 学 期	9 月 1 日(水)	「プランニング対決」オリエンテーション, テーマの選定,	
	9 月 8 日(水)	テーマ・グループの決定, 調査方法の検討(グループディスカッション)	
	9 月 15 日(水) ~22 日(水)	校内における調査 (インターネットなど), 中間報告	
	9 月 29 日(水) ~10 月 6 日(水)	発表用パワーポイント作成, 中間報告	
	10 月 13 日(水)	第 1 回コンペティション	
	10 月 20 日(水)	第 2 回コンペティション	
	10 月 27 日(水)	第 3 回コンペティション	
	11 月 10 日(水)	第 4 回コンペティション	
	11 月 17 日(水)	第 5 回コンペティション	
11 月 24 日(水)	各クラス最優秀賞学年発表会		

(3) 「台湾現地学習」1 年生 3 学期~2 年生 1 単位

〈学習到達目標〉

- ① 我々と異なった自然・文化・民俗・歴史・産業などに触れ, より広い知見を持ち, 豊かな情操を養う。
- ② 健康・安全に対する態度を育て, 公共性・公衆道徳などを身につけ, より豊かな人間関係を築く。
- ③ 国際社会に対して自らの意見を持ち, その意見を表明する能力を身につけ, 国際社会の平和と発展や環境の保全に貢献し, 未来を拓く主体的な人格を陶冶する。

### 〈学習内容と方法〉

- ① 台湾事前学習（「台湾事前研究」作成と発表）
- ② 台湾現地学習（社会体験・異文化体験・自然体験）
- ③ 台湾事後学習（「現地学習で感じたこと認識したこと」レポート作成）

### ■「台湾現地学習」授業日程(平成21年度)

月	日	内 容	配時
11	5(木)	外務省職員による高校講座「アジア諸国の現状と日本」	2
12	9(水)	「台湾現地学習」の目的および内容について	2
	14(月)	台湾の歴史について（講義）	1
	16(水)	台湾の地理・自然について（講義）	2
	18(金)	自己の興味・関心に応じて研究分野の選択 テーマの提出締切 12/22(火)	2
	22(火)	台湾の政治・風土について（講義）	2
1	8(金)	研究テーマ別グループ編成と共通テーマ	2
	15, 22, 29(金)	研究テーマについての調査	6
2	5, 12(金)	レポート作成（研究のまとめ）	4
	19(金)	グループごとに発表	1
3	10(水)	「台湾事前研究」（冊子）作成と相互評価	1
	11(木)	台湾現地学習直前講習	2
	13(土) ～17(水)	現地での調査・見聞のまとめ	3
	19(金) ～24(水)	台湾現地学習についてのレポート作成 （研究成果のまとめ） レポート提出締切 3/24(水)	3
4	15(木)	グループごとに報告	1
	22(木)	「台湾事後研究」（冊子）作成と相互評価	1

### 3. 「総合的な学習の時間」の成果

#### (1) 「生活と社会」の成果

- ①課題発見能力：身近な事象のディベートにおいても、プランニング対決においても生徒自身が討論する中で、自分たちの興味関心ある課題を発見させることができた。
- ②考察力：自分なりに納得できる答えを探し求め、身近で具体的な問題であっても社会と結びつけて考察させることができた。それらの考察をもとに課題に対して自分なりの意見を形成させることができた。
- ③情報収集活用能力：インターネットをはじめ、インタビュー・アンケートなど幅広く情報を集め、それらを分析し、グラフ化するなど表現する力を身につけさせることができた。

- ④論理性：常に他者を納得させることができるよう、論理的に結論を導く努力をさせることができた。
- ⑤コミュニケーション能力：自分自身の考え方を他者と話し合い、さらに深めていくようコミュニケーション能力を向上させることができた。
- ⑥表現力：生徒は主体的に、口頭表現のみならず、パワーポイント、映像、音楽など表現を豊かにする技能を磨き、表現力向上に成果を上げた。
- ⑦協働性：すべてがグループワークになっており、協働性を発揮させることができた。
- ⑧創造性：特にプランニング対決では、発想の独創性、表現の工夫など創造性を発揮させることができた。
- ⑨その他：ほとんどの生徒が楽しく主体的に「総合的な学習」に取り組めた。それは探究的・創造的な学習に喜びを感じたからである。また、一年1学期は、ホームルーム造りに大いに貢献できた。

## (2) 「生活と社会」成果の要因

- ①目的と評価の観点の明確化
- ②教師による、生徒が次に向かって意欲的に取り組めるような形成的評価の実施
- ③生徒自身の自己評価
- ④健全な競争、生徒の相互刺激、先輩の先例からの刺激
- ⑤適切な時間管理
- ⑥校内全体の支援体制

## (3) 「台湾現地学習」の成果 現在、総括中

### 4. 「総合的な学習の時間」の課題

#### (1) 「生活と社会」の課題

- ① 評価の観点に基づく「文章評価」方法の確立  
観点別による評価をより有効に生徒に還元できるような「文章評価」方法を確立すること。

#### (2) 「台湾現地学習」の課題

- ① 「台湾現地学習」をより探求型にすること。特に現地における探究的学習が課題。

#### (3) 「総合的な学習の時間」全体の課題

- ① 3年間の教育課程の中での「総合的な学習の時間」の位置づけの明確化。とくに各教科・進路指導・特別活動・ホームルーム活動との関係を明確にすること。
- ② 現在の「総合的な学習の時間」のノウハウを次世代教員にいかに関承するか。